



アストンマーティン Vantage と The Heart of Racing、 ル・マン 24 時間 LMGT3 クラスの表彰台獲得

- アストンマーティン Vantage、ル・マン 24 時間レースにて 11 度目のクラス表彰台を獲得
- The Heart of Racing チームはサルト・サーキット初の表彰台を達成
- グレイ・ニューウェルはデビュー戦、ドウドウ・バリチェロは挑戦 2 度目にして表彰台に立つ
- 27 号車 THOR Vantage のイアン・ジェームズ、ザック・ロビション、マッティア・ドゥルディはポールポジションからのスタートながら、レース終盤でまたしても涙をのむことに
- 2 度クラス優勝を果たしているジョニー・アダム、ル・マン 3 度目となる表彰台に再び立つ
- アストンマーティンのエンジニアリング・パートナー、Prodrive が 19 度目の表彰台フィニッシュでル・マン 25 周年を祝う



2026 年 6 月 14 日、ル・マン（フランス）：

日曜日、ル・マン 24 時間レースにて The Heart of Racing チームが 3 位フィニッシュを決め、英国の名門アストンマーティンの耐久レースの歴史において最も成功を収めているレーシングカー Vantage が、世界最高峰のル・マンにおける 11 度目のクラス表彰台を獲得しました。

デビュー戦となったグレイ・ニューウェル（米国）が、FIA 世界耐久選手権を共に戦うドウドウ・バリチェロ（ブラジル）とル・マンで2度のGTクラス優勝を果たしているジョニー・アダム（英国）と組み、緊迫する激しい戦いを制して最後の表彰台に滑り込みました。3位を巡って争っていたレクサスとはわずか2.5秒差という劇的なフィニッシュでした。

この快挙によって、Vantage GT3の最新世代がル・マン初のクラストップ3入りを果たしました。Vantage GT3は、ウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンがスポーツカーとして最高に磨き上げたVantageと同じメカニカルアーキテクチャを採用し、アストンマーティンの実績ある接合アルミシャーシを中心に組み立てられ、強力な4.0リッターV8ツインターボエンジンを搭載しています。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは次のように述べています。「Vantageが傑出したパフォーマンスを発揮してくれました。アストンマーティンにとってはル・マンで再び好成績を挙げた週末となり、パートナーのHeart of Racingチームにとっても素晴らしい結果となりました。Vantageのこの世代は、2024年のデビュー以来ずっと、ル・マンの優勝争いに絡んできました。非常に競争力の高い、体制の整ったパートナーの手で表彰台を達成でき、うれしく思います。このマシンには優勝できる実力があると確信していますし、それはレースを通して示されていたので、来年も戻ってきて再挑戦します。デビュー戦で見事な活躍を見せたグレイ、印象深い走り続けるドウドウ、そしてもちろん、過去にアストンマーティンに見事な勝利をもたらした今回も自身にふさわしい成績を挙げたジョニーに、お祝いを申し上げます」

米国を本拠とするHeart of Racingチームにとって、ル・マンでの表彰台獲得は初めてのことです。今回は初めて2台のVantage GT3をレースに投入しました。チーム代表のイアン・ジェームズ（英国）と、ザック・ロビション（カナダ）、マッティア・ドウルディ（イタリア）が今回もドライバーを務める27号車THOR Vantageは、ドウルディが予選最速ラップの記録を3分52秒433で更新し、2年連続でポールポジションを獲得しました。残念なことに、レースで数時間にわたってクラスの先頭を走り、ペースセッターとなっていたにもかかわらず、21時間目にテクニカルトラブルに見舞われました。

この不運で、レースを通してトップ5、またはその近辺を走っていた23号車Vantageが表彰台圏内に入りました。第94回大会が残すところ数時間になると、首位のコルベット、それを追うレクサス、その後続く3位を巡る争い、という構図が明らかになってきます。レクサスの姉妹車が最終ラップでバリチェロに猛烈な圧力をかけてきましたが、ブラジル出身の若手バリチェロは冷静に対応し、自身のル・マン初表彰台を勝ち取りました。

バリチェロは次のように述べています。「終盤のラップでは自分の全力を尽くし、マシンの力を総動員しました。このような場面では、周りにいる人たちを信じなければなりません。エンジニアたちは、情報と、達成すべきターゲットを送ってきてくれました。自分は冷静を保ち、与えられた役割を果たすだけでしたが、ありがたいことにそれで表彰台が獲得できました」

2017年と2020年にクラス優勝しているアダムは、今回の表彰台獲得によって、ル・マン出場の50%を表彰台で終えている計算になります。「アストンマーティンとル・マンとの関係は、常に特別なものでした。だからこそ、これだけアストンマーティンの歴史と深い縁のあるこの場所で表彰台に上ることには、大きな意味があります。レースでは、セーフティカーと戦略に関して幸運も不運もありましたが、全体的にはとてもうまくいったと思います。特にグレイは今回がル・マンのデビュー戦で、表彰台を獲得できたのは彼の自信に大きなプラスとなり、これまでの懸命な努力すべてに大いに報いるものでもあるので、彼のためにとってもうれしく思っています。今日は2台とも素晴らしい展開を見られたかもしれないところではありますが、まずはこの結果を祝いたいと思います」

ニューウェルは、当然ながらこの結果は忘れられないものになります。「何よりも、このチームの一員であることが、とても幸運だと感じています。みんな、最高です。Heart of Racingは素晴らしい文化を持っています。チームに加わった瞬間からすぐに感じました。初めてル・マンにやってきて、この場を経験し、最後に表彰台に立てたということは、特別なことです。今週の最も大きな収穫の一つが、自分が勇気づけられたことです。ここに来て、このようなレベルで競い、それでも落ち着いていられることは、かなり自信になりました。自分の持つスキルがうまくいって、自分が正しい方向に向かっていることを示していると思います」

イアン・ジェームズも次のように述べています。「素晴らしい24時間レースでした。彼らは今週ずっと、やるべきことを成し遂げていました。27号車については落胆しています。ギアボックスを失うまでは優勝争いに絡んでいたのです。もちろんつらい気持ちもあって少々複雑ですが、チーム初のル・マン表彰台をとってもうれしく思います。この場所は本当に特別で、ここでレースできることを光栄に思います。今後はブラジルを楽しみに、勝利に挑みたいと思います」

THORの2台に加え、Racing Spirit of Léman (RSL)からも、今回初出場のクレマン・マテウ(フランス)とマリウス・フォサール(フランス)、そしてアストンマーティンのワークスドライバーであるヴァランタン・アス・クロワ(フランス)の三人組がアストンマーティンVantage GT3 59号車で出場し、11位フィニッシュの健闘を見せました。

アストンマーティンのエンジニアリング・パートナーである英国のProdriveは、今年のレースでル・マン25周年を迎えました。今回の結果により、Prodriveの表彰台獲得数は、V12駆動のDB9に始まりVantageの進化を通して得られた7つのクラス優勝を含め、19に上ります。



アストンマーティン Valkyrie、 ル・マン 24 時間でトップ 10 入り

- アストンマーティン Valkyrie、ル・マン 24 時間でトップ 10 入り
- 2度のクラス優勝実績を持つジョニー・アダム、ドウドウ・バリチェロとグレイ・ニューウェルと組み 2020 年の勝利以来のル・マン出場
- Vantage を駆るニューウェル、クレマン・マテウ、マリウス・フォサールは、ル・マン 24 時間レース初出場
- アストンマーティンのエンジニアリング・パートナー Prodrive、ル・マン 25 周年を祝う

日曜日、第 94 回ル・マン 24 時間レースで、トム・ギャンプル、ロス・ガン、ハリー・ティンクネルの英国人トリオがアストンマーティン THOR チームの 007 号車 Valkyrie で 8 位に入り、アストンマーティンの衝撃のハイパーカー Valkyrie のサルト・サーキットにおける自己ベストフィニッシュを達成しました。

これは、英国生まれのハイパーカー Valkyrie にとって、2026 年の出足が好調な 007 号車のイモラ 9 位、先月のスパ・フランコルシャンの WEC 自己ベストの 4 位に続く、FIA 世界耐久選手権における 5 連続ポイントフィニッシュになります。

アストンマーティン THOR チーム代表のイアン・ジェームズは次のように述べています。「本プログラムにとって、8 位フィニッシュは大きな前進です。レースごとにどれほどの進歩を重ねているのかを示すものです。こころ・マンで強力な相手に対抗して競うのは困難な挑戦だとはわかっていましたが、私たちは一生懸命力を尽くし、あらゆる面でやるべきことをやりました。チームの懸命な努力のおかげで 007 号車が結果を出すことができ、とてもうれしく思います」

アストンマーティンと THOR によって Valkyrie の市販モデルをベースに開発されたル・マン・ハイパーカー (LMH) バージョンの Valkyrie の 8 位は、ル・マンで公道仕様のハイパーカーに由来するマシンが達成した最高位でもあります。Valkyrie は、ハイパーカー規則に沿って製造されたマシンの中で唯一、WEC と IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権の両方に出場しています。

2台の **Valkyrie** は本戦を前に印象的な走りを見せ、公式テストで最速を記録したほか、ハイパーカークラスの予選順位でも存在感を放ち、マルコ・ソーレンセン（デンマーク）、アレックス・リベラス（スペイン）、ロマン・デ・アンジェリス（カナダ）が駆る **009** 号車は7位、**007** 号車は11位に入りました。

アストンマーティンのハイパフォーマンス・アンバサダーを務めるマーク・カヴェンディッシュ（元プロ自転車競技選手、ツール・ド・フランスの最多ステージ優勝記録保持者）がスタートフラッグを振って送り出された総勢 **62** 台の出場車は、約 **35** 万人に上る観衆の前で、序盤から猛烈なペースで走っていました。英国国旗を配した特別ナリバリーをまとった2台の **Valkyrie** は本領を発揮し、日が暮れる頃にはトップ **10** 内に位置付けていました。

最終的に、2台のうちの成績は **007** 号車のほうが上になりました。**009** 号車はシーズン初のポイントフィニッシュに向かって順調に進んでいましたが、最終盤になってテクニカルトラブルの発生でピットインを余儀なくされ、最終的には **WEC** ハイパーカークラスの **10** 位から **14** 位にまで順位を落とすことになりました。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは次のように述べています。「今年のル・マンは、**Valkyrie** の **WEC** 参戦の中でまた一つ、心強い実績となりました。週前半の、燃料が低い状態での **Valkyrie** のペースはいい感じではありましたが、本戦に関してはあまり現実的ではなく、レース装備に切り替えた途端、ストレートでのスピード不足にもっと悩まされることになりました。とはいうものの、チームはいつものように確実にやるべきことをやり遂げ、それが世界で最も過酷な耐久レースの一つにおけるポイントフィニッシュに大きく貢献しました」

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://astonmartin.wetransfer.com/downloads/25fb99d00d9931bc5aa4ce786e20923620260614175924/c8a84fc2c8501e48caae852966d544d320260614180040/e944e3>

アストンマーティン・ラグondaについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって**1913**年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、**Vantage**、**DB12**、**Vanquish**、

DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、**Racing. Green.**サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブトレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp